

宮本茶園 宮本透

昨年秋に体調を崩し救急車で搬送されてから1年、肥料・有機資材等重量物を扱う作業が辛くなりました。機械を使う整枝作業や摘採作業は息切れして長い時間続けられず、前号では昨年に比べ一日の摘採茶葉重量が減っていると記しました。摘採作業終盤の朝から蒸し暑く日差しが強い日、摘採機操作が出来なくなりました。目まいがして立っていられずヘルパーに作業を替わってもらい、這いずるように日陰に入りへたばってしまったのです。

午前中の作業が終わり、皆さん心配して「心臓が悪いよだから、大きな病院へ行って医者に診てもらいなさい！」と言われます。特に昨年心筋梗塞で救急搬送された方の体験談は私の症状と重なり命にかかわる事と真摯に受け止め、上野原市立病院で精密検査を受けました。処方薬を服用してからは目まい・息切れ症状が解消され酷暑の中での野良仕事を順調にこなしていますが、主治医からは「入院して手術を受けるように」と診断されています。「六十にして耳順う」、農閑期になったらしっかりと治療を受けて健康寿命を延ばしたいと思います。

・佐野川茶相模原ブランド構築の取り組み

藤野茶業部佐野川茶製品はJA 神奈川つくと観光協会の店舗販売が主ですが、新茶を心待ちにしてくださるお客様は増えています。今年の新茶は諸事情で製造が遅れ発売は6月中旬となりましたが、発売日の問い合わせを多数いただきました。あぐりんずでは商品棚へ新茶を並べていた時「今年は遅かったじゃないの。ずっと待っていたのよ」と声を掛けてくださったお客様がいらっしゃいました。全く面識のない方でしたが「親戚や知人に配るから」と納品した半数近くを購入していただき、とても励まされました！

昨年6月に商標登録の手続きをしてから半年、2月下旬特許庁から登録証が交付されました。佐野川茶はJA 神奈川つと藤野茶業部農家が県農業技術センターの栽培指導で生産する茶葉を、茶来未が12微細分類製茶法で焙煎加工した製品であると社会的に定義されたわけです。今年は相模原市役所みんなのSDGs推進課へ「さがみはらSDGsパートナー」、農政課へ「さがみはらのめぐみ」登録申請を行いました。

「さがみはらSDGsパートナー」は7月24日市役所で登録証盾交付式が開催され、本村市長より津久井産材で作られた盾をいただきました。式典では市長やパートナーとの意見交換があり、参加者に藤野茶業部の佐野川茶相模原ブランド構築の取り組みを伝えました。「さがみはらのめぐみ」は相模原産農産物の認証で、登録申請後に審査がありました。6月半ば農政課担当職員が佐野川へ来訪し茶園視察と生産履歴確認をされたのですが、案内しながら藤野茶業部の現状をつぶさに伝えました。審査後に認証シールとのぼり旗が交付され、あぐりんず夏の感謝祭で佐野川茶試飲コーナーを設け相模原ブランドをアピールしました！



・夏の茶仕事

今年は県知事選があり神奈川県職員人事は6月1日でした。県農業技術センター津久井地区担当は山崎先生が移動し黒澤先生に引き継がれました。夏整枝講習会では上岩茶園の深刈り更新剪枝指導を希望しましたが、黒澤先生は「今年は茶園の更新をせず、一年かけて佐野川茶の今後を考えて行きましょう」と言われます。急遽経営相談となった今年の夏整枝講習会、最近先輩茶業部員引退後を見据えた茶園経営を考えていたので若い後継者育成のアドバイスを求めたところ「今の経営状況で、若い新規就農者に佐野川茶栽培を宮本さんと一緒に取り組みなさいと勧める事が出来ますか？」と逆に質問され、何も言えなくなりました。木俣師から「儲からない農業経営を自慢するのは止めなさい」と言われた事と重なり、初回指導からいきなり難しい課題が出されました。

木村先生から連絡があり、大洞茶園での夏整枝作業職員研修を依頼されました。管理職になってからは会う機会が減らない木村先生なので、再会を楽しみに機械を用意しました。久しぶりに上岩を訪れた先生は中切り更新剪枝した茶園や再生させた荒廃茶園を見て「頑張っていますね。見違えるような茶園になりました！」とほめてくださいました。7月10日からアルバイトを頼んで夏整枝作業をしましたが、摘採できなかつた新芽は大きな葉になり病気が発生して

います。畝間に刈り落とされていく枝葉を踏みしめ作業をしていると空しさがこみ上げました。猛暑が続きますが、今は夏肥をたっぷり吸収し色鮮やかな新芽の出た茶園でつる草を抜いています。

・第45回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

茶園に春肥を施した後の肥料袋を持って内郷へ出かけ堆肥を詰め込み搬送、元肥に施して土作りをする作業は花卉畑恒例早春の野良仕事となりました。4回目の花卉栽培、今年は病院通いの影響して作業が滞り昨年会場飾花で好評だったロシアヒマワリを播種したのは6月下旬でした。吉田さんが苗の定植や追肥・除草作業を担って下さいましたが昨年並みの生花は用意できないと判断し、事務局に会場飾花用花卉を手配してもらいました。幸い篠原の four peas flower が引き受けてくださり、ヒマワリ・ジニア・コスモスにダリアが加わりました。

追悼会に先立つ7月20日神奈川県藤沢市神奈川南陽中高級学校フィールドワークが行われ、今年は生徒たちへ献花用生花を届けた後花卉栽培に取り組む思いを語る時間をいただきました。1980年代八王子養護学校の生徒たちと学んだ浅川地下壕建設の歴史、教員時代「日の丸・君が代」強制と闘い神奈川県教委から受けた処分、処分撤回裁判で出会った元兼光寺徴用工の在日韓国人、教員失職と新規就農、生徒たちは私の人生観や日本が犯したアジア侵略戦争被害者への謝罪の気持ちを真剣に聞いてくれました。

追悼会前日実行委員が花卉畑で生花を収穫して会場準備を行いました。7月30日コロナ禍での制約が解除され4年ぶりに参加者が集う会場では各界あいさつに併せて子どもたちの合唱や韓国舞踊が披露され、たくさんの方が相模湖・ダム建設殉職者に献花して下さいました。



・雑穀街道普及会の活動

復活2年目第12回自給農耕ゼミ(佐野川) 雑穀栽培講習会は予定通り5月21日開催、継続メンバーに「つぶつぶ雑穀パワーフェス」参加者やINCH 後輩の大澤さんが加わり播種作業を行いました。ピーボ原料のキビを主に、見本園には学生時代木俣研で旧秋山村を調査し入手したモチアワも植え付けました。9時上岩雑穀畑集合午前中は実習、午後は石楯尾神社境内で昼食を食べながら木俣研講義そして流れ解散という大まかな時間配分で、6月・7月は追肥・除草・土寄せ、8月は防雀ネット張りをしました。秋には収穫や和田のJazz Brewing Fujino 工房見学、冬には味噌・醤油仕込み等、毎月ゼミを開催できるように準備しています。植物と人々の博物館メルマガで日程確認して参加お申し込みください。

8月9日上野原市長と3回目の面会がありました。参加者は雑穀街道普及会、ワノサト・エコビレッジ、INCH、NPO さいはら、上野原市農業委員会が14名、上野原市が市長・職員7名の大きな会議でした。縄文リビングラボの旧西原小学校施設活用案、植物と人々の博物館・雑穀街道普及会やNPO さいはらの活動紹介、行政と各団体の意見交換等重要な問題が話し合われ、9月に上野原市役所で雑穀街道を世界農業遺産に登録申請する説明会が開催される事になりました。この説明会は来年2月の農林水産大臣への申請準備に向けて大きな節目となるでしょう。しっかり準備して関係機関や関心のある市民に呼びかけ、たくさんの参加者を集めたいと思います。



※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。